

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	(株) ふるさと	代表者	西村さとみ	法人・事業所の特徴	当事業所は幼・小・中・高の学校に囲まれ住宅内に位置し地域に根付いた施設運営を目指している。若年の方から超高齢の方々に利用して頂き、認知症の初期段階から利用者・家族と馴染みの関係を構築し、最期の看取りまで住み慣れた地域で小規模多機能型居宅介護の特徴を活かしながら、柔軟なサービスを提供し在宅生活の限界点を高める事が出来るよう切磋琢磨し取り組んでいる。
事業所名	ふるさとの里	管理者	廣田志保		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人	3人	0人	3人	1人	人	4人	人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	改善計画の確認、実行したなかでどれくらい改善したのか表を作り明確にする	技能実習生、特定技能のスタッフが増えたことにより、母国も増え、日本語が共通言語となり相乗効果が期待できたが、来日して間もないスタッフもあり、まだまだといった評価となっている。	改善の必要な事柄、問題となるところが定義されており、それに対する取り組みもされている。	事業所のあり方・考え方を外国人スタッフへの説明・指導していくと共に、ご家族地域の方へもふるさとの支援のあり方をご理解していただけるよう、運営推進会議などを活用し報告していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	コロナウイルスが5類になり、感染の防止だけでなく、早朝・夜間の来客者の対応にも気を付け、防犯の面からもインターホンの使用方法をマニュアル化する	日中には、玄関近くにもデイルームがあり施錠をしていないが、夕方職員が退社するところからは施錠をしている。インターホンもカメラ付きのものに取り換え、対応している。	普段から開かれた施設であることを感じている	感染防止の面から、来客者、面会者の方々にも体調の確認をさせていただき、安心して来所、面会していただける環境を作っていく。
C. 事業所と地域のかかわり	地域のイベントへの参加施設でのイベントにも今以上に来て頂けるよう発信を強化していく	地域の防災訓練などにも声掛けいただき、参加させていただいている。また、ふるさとでのイベントでは、少し離れた学校の生徒さん方にも参加していただいた。	イベントの告知として、パンフレットの配布の強化をしてはどうか。	地域ボランティアの方々、インターンシップ、お月見泥棒などにはこれまで通り来ていただけるよう、ふるさとでの避難訓練などにご近所の方にも参加していただけるような発信取り組みをする。
D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取り組み	地区内で行われるイベントへの参加はこれまでの様に、その他の地域で行われるイベントや催し物への見学など、行ける工夫をしていく	コロナウイルスが5類にはなったものの、今年はインフルエンザの流行や、その後のコロナウイルスの流行により、思うように活動が出来なかったことが現実であり残念な結果である。	利用者本人の住んでいる地域の方を交えた会議が行われていないようである。  利用者以外のご近所の心配な方を通知しやすい環境である。	その方にとっての地域や、資源利用の意味をそれぞれ理解した上で、参加に向けてご利用者と共に考え支援していく。

E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議で頂いた意見を元に、これまでのイベントや訓練等、ご家族だけでなく地域の方にも参加して頂けるような計画をしていく	餅つき大会にはご利用者家族だけでなくご近所の方にも来ていただくことが出来ていたが、それ以外の催しにご近所の参加が少なかった。	事業所の取り組みが、これまでに関わった事例を通じた報告が毎回されている。	餅つき大会だけでなく、避難訓練、防災訓練などにも地域の方にも参加していただけるような案内の強化を図っていく
F. 事業所の 防災・災害対策	炊き出し訓練を兼ねた、もちつき大会や、有事に地域の方に助けを求めることが出来るように、複数の災害を想定した防災訓練を行う	これまでの避難訓練では部分訓練としてそれぞれの訓練をしてきたが、今年度初めての総合訓練を行い、ご家族と共に消火訓練も行うことができた。	災害時には、頼りになる事業所であってほしい。 地域の防災訓練に、本年度は役員さん、小学校の生徒さんも合わせて参加されていた。	災害時のための準備物、備蓄品がどこにあるかの職員への周知徹底と、それらの使用方法の説明訓練は回を重ねることが必要と感じ、繰り返し研修訓練していく。

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	(株) ふるさと	代表者	西村さとみ	法人・事業所の特徴	当事業所は幼・小・中・高の学校に囲まれ住宅内に位置し地域に根付いた施設運営を目指している。若年の方から超高齢の方々に利用して頂き、認知症の初期段階から利用者・家族と馴染みの関係を構築し、最期の看取りまで住み慣れた地域で小規模多機能型居宅介護の特徴を活かしながら、柔軟なサービスを提供し在宅生活の限界点を高める事が出来るよう切磋琢磨し取り組んでいる。
事業所名	ふるさとサテライト	管理者	廣田志保		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人	3人	0人	1人	1人	人	4人	人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	改善計画の確認、実行したなかでどれくらい改善したのか表を作り明確にする	技能実習生、特定技能のスタッフが増えたことにより、母国も増え、日本語が共通言語となり相乗効果が期待できたが、来日して間もないスタッフもあり、まだまだといった評価となっている。	改善の必要な事柄、問題となるところが定義されており、それに対する取組みもされている。	事業所のあり方・考え方を外国人スタッフへの説明・指導していくと共に、ご家族地域の方へもふるさとの支援のあり方をご理解していただけるよう、運営推進会議などを活用し報告していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	季節の変化を感じ取ることが出来る	事業所の取組みとしてだけではなく、わんず・託児との協働により、季節のしつらえに配慮することが出来た	普段から開かれた施設であることを感じている	玄関周りだけでなく、デールームのしつらえを行っていく
C. 事業所と地域のかかわり	地域のイベントへの参加施設でのイベントにも今以上に来て頂けるよう発信を強化していく	地域の防災訓練などにも声掛けいただき、参加させていただいている。また、ふるさとでのイベントでは、少し離れた学校の生徒さん方にも参加していただいた。	イベントの告知として、パンフレットの配布の強化をしてはどうか。	地域ボランティアの方々、インターンシップ、お月見泥棒などにはこれまで通り来ていただけるよう、ふるさとでの避難訓練などにご近所の方にも参加していただけるような発信取組みをする。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地区内で行われるイベントへの参加はこれまでの様に、その他の地域で行われるイベントや催し物への見学など、行ける工夫をしていく	コロナウイルスが5類にはなったものの、今年はインフルエンザの流行や、その後のコロナウイルスの流行により、思うように活動が出来なかったことが現実であり残念な結果である。	利用者本人の住んでいる地域の方を交えた会議が行われていないようである。  利用者以外のご近所の心配な方を通知しやすい環境である。	その方にとっての地域や、資源利用の意味をそれぞれ理解した上で、参加に向けてご利用者と共に考え支援していく。

E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議で頂いた意見を元に、これまでのイベントや訓練等、ご家族だけでなく地域の方にも参加して頂けるような計画をしていく	餅つき大会にはご利用者家族だけでなくご近所の方にも来ていただくことが出来ていたが、それ以外の催しにご近所の参加が少なかった。	事業所の取り組みが、これまでに関わった事例を通じた報告が毎回されている。	餅つき大会だけでなく、避難訓練、防災訓練などにも地域の方にも参加していただけるような案内の強化を図っていく
F. 事業所の防災・災害対策	炊き出し訓練を兼ねた、もちつき大会や、有事に地域の方に助けを求めることが出来るように、複数の災害を想定した防災訓練を行う	これまでの避難訓練では部分訓練としてそれぞれの訓練をしてきたが、今年度初めての総合訓練を行い、ご家族と共に消火訓練も行うことができた。	災害時には、頼りになる事業所であってほしい。 地域の防災訓練に、本年度は役員さん、小学校の生徒さんも合わせて参加されていた。	災害時のための準備物、備蓄品がどこにあるかの職員への周知徹底と、それらの使用方法の説明訓練は回を重ねることが必要と感じ、繰り返し研修訓練していく。

認知症対応型共同生活介護 「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社ふるさと	代表者	西村 さとみ	法人・事業所の特徴	当事業所は同一法人内に居宅介護支援、地域密着、認知症対応通所介護、訪問看護、看護小規模多機能型居宅介護を有しており、認知症の初期の段階から、ご利用者・ご家族と馴染みの関係を構築出来るよう支援を行っています。「利用者本位」「自立支援」を「生活の視点」から見る取り組みを行っており、地域との繋がりを断ち切らないような支援を日々奮闘しています。
事業所名	グループホーム 我が家	管理者	松本 明宏		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人	3人	0人	2人	1人	人	4人	人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	利用者の情報の共有を行い、得られた情報を元に会議を開催し、利用者のニーズに応じていく。	利用者の情報共有は申し送りノートを使って行った。会議の開催はその都度行っており、利用者情報の共有を行った。		申し送りノートを使ったり会議の開催で情報の共有を図ったが、十分理解出来ていないスタッフ（日本人スタッフ、外国人スタッフ共に）がいたので、勉強会等行い共有を行って行く。
B. 事業所のしつらえ・環境	事業所開始からの状態が維持できるように環境整備を行う。	掃除の担当などを作成し環境整備を行った。 季節やイベントに合わせてながら入りやすい玄関のしつらえを行った。	入る際の張り紙の工夫がされており良かった。玄関に色々飾ってあって入りやすい雰囲気だった。	玄関だけでなく、利用者さんが過ごす場所に季節感を持たせる等のしつらえを行って行く。
C. 事業所と地域のかかわり	事業所と地域の関わりについてはコロナ過も緩和してきたことから、避難訓練等の地域イベントにより参加できるよう計画を行っていく。	事業所にボランティアの方が来たり、健康ケア教室と一緒に参加する等外部から事業所への来所する事はあったが、外へは行く事が出来ていない。	地域の方に散歩コースをアドバイス頂いた。	地域の方のアドバイスを活かし外出支援を行って行く。 また、地域のイベントの計画を頂き、外出の計画を立て実行していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	事業所に来てもらう事は出来ているが、こちらから利用者と共に出ていく機会が少ないので、計画を立て、地域の資源を使った本人支援を行えるよう本人・家族・地域のアセスメントを行っていく。	本人とコミュニケーションを行い、馴染みのあるスーパーや理髪店に出向いている。	地域の方に散歩コースをアドバイス頂いた。	現在地域資源を使って支援している人だけでなく、他の利用者さんにも出来るように検討・実施していく。

E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議を活かし家族のニーズ・地域のニーズの把握に努め、必要な物を検討し運営推進会議として行っていく。(家族会・介助技術勉強会 etc.)	運営推進会議を行う際は、家族に介護の相談等を聞くように心がけている。		運営推進会議を活かし、地域のニーズを把握する 把握したニーズを具現化していく
F. 事業所の 防災・災害対策	BCP の作成と職員への周知を行っていきます。内部研修や避難訓練の際に BCP の必要性和中身について周知を行っていく。	BCP は内部研修を行い職員には周知を行った。また、避難訓練等も行い周知を行った。有事の際に対応できるように、自家発電機の導入を行った。		BCP は引き続き研修を通して繰り返し学ぶ機会を作っていきます。自家発電機の使い方の研修を行い、有事の対応が出来るように周知していく。

看護小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社ふるさと	代表者	西村 さとみ	法人・事業所の特徴	当事業所は同一法人内に居宅介護支援、地域密着、認知症対応通所介護、訪問看護、看護小規模多機能型居宅介護を有しており、認知症の初期の段階から、ご利用者・ご家族と馴染みの関係を構築出来るよう支援を行っています。「利用者本位」「自立支援」を「生活の視点」から見る取り組みを行っており、地域との繋がりを断ち切らないような支援を日々奮闘しています。
事業所名	ふるさとカクテル	管理者	加藤 幸恵		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	3人	人	4人	1人	人	4人	人	13人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	情報共有の課題については、申し送りやラインなどのツールを利用しながらどの職員でも同じ情報を共有できるようにしていく。自己研鑽の為の研修には積極的に参加し介護現場で研修を生かせるようにしていく。	利用者の情報共有については連絡ノートや、ライン、会議などでその都度情報共有することができた。 家庭の事情で研修には参加できないスタッフがいても、研修に出たスタッフが内容を報告し、周知することで、現場に生かすことができた。	課題に対しての計画が記されているので、その課題に向けて頑張りたい。	・看護師の視点、介護士の視点からアセスメントし、それぞれの特徴を生かしながらケアに生かしていく。 ・きめ細やかな対応をすることで、在宅生活に不安がある、退院時には在宅生活が困難である利用者の方でも安心して自宅で生活できるようにしていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	事業所開始からの状態が維持できるように環境整備を行う。	掃除の担当などを作成し、環境整備を行った。季節のイベントに合わせた置物やしつらえを工夫しながら入りやすい玄関になるよう努めた。	いつも玄関周りに季節に合った飾りがしてあり、きれい。(例えばクリスマスツリー) など	玄関だけでなく、利用者様の方が過ごす場所に季節感を持たせるしつらえを行っていく。
C. 事業所と地域のかかわり	事業所と地域との関わりについてはコロナ過も緩和してきたことから、避難訓練などの地域イベントにより参加できるよう、計画を行って行く。	・事業所にボランティアの方が来たり、健康ケア教室と一緒に参加する等外部からの事業所へ来ていただく機会はあったが、事業所から外部に行くことができていない。 ・サービスにつながらなくても、地域の方の医療や介護の相談の場として、関わりを持つ事ができている。	・もちつき大会については再開されたのでうれしく思うので、引き続き続けて行ってほしい。 ・機関とより連携を深め、地域に根差した運営を行ってほしい。 ・地域に良い散歩コースがあるので活用してもてはどうか。	地域の方からいただいたアドバイスを生かした外出支援を行う。また、地域のイベントの情報を頂き、外出する機会を増やしていくようにする。

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>事業所に来て頂ける取り組みについては継続して行って行く。地域に出向くことができる機会（避難訓練など）を増やすことができるよう、参加を計画していく。</p>	<p>本人とコミュニケーションをとりながら、馴染みのあるスーパーや理髪店などに出向いている。</p>	<p>課題に対しての計画が記されているので、その課題に向けて頑張っている。</p>	<p>現在地域資源を使って支援している人だけでなく、他の利用者の方にもできるように、生活歴などを把握し計画を立てていく。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>・事業所内、他事業所、地域との様々な連携を通じて事業所だけでなく、地域全体で支える取り組みをしていく。</p>	<p>・運営推進会議を通じ、地域住民だけでなく、他事業所、介護予防室以外の行政と連携を図るようにした。</p>		<p>運営推進会議を活かし、地域のニーズを把握する 把握したニーズを具現化していく</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>BCP の作成と職員への周知を行って行きます。内服研修や避難訓練の際に BCP の必要性和中身について周知を行って行く。</p>	<p>BCP は内部研修や避難訓練をすることで職員への周知を行った。有事の際には対応できるように、自家発電の導入を行った。</p>	<p>災害時、頼りになる事業所だと感じる。</p>	<p>BCP は引き続き、研修を通して繰り返し学ぶ機会を作っていく。自家発電の使い方の研修を行い、有事の対応が出来るように周知していく。</p>



定期巡回・随時対応型訪問介護看護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社ふるさと	代表者	西村 さとみ	法人・事業所の特徴	当事業所は同一法人内に居宅介護支援、地域密着、認知症対応通所介護、訪問看護、看護小規模多機能型居宅介護を有しており、認知症の初期の段階から、ご利用者・ご家族と馴染みの関係を構築出来るよう支援を行っています。「利用者本位」「自立支援」を「生活の視点」から見る取り組みを行っており、地域との繋がりを断ち切らないような支援を日々奮闘しています。
事業所名	ふるさと縁	管理者	日沖友貴		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	3人	人	人	1人	人	4人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
事業所自己評価の確認				きめ細やかな対応をすることで、在宅生活に不安がある利用者の方でも安心して自宅で生活できるようにしていく。
事業所と地域のかかわり				利用者が生活する地域との関係を構築していく
地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み				本人の生活圏域での地域資源を活用した取り組みを検討する
運営推進会議を活かした取り組み				定期巡回とは馴染みのないサービスである為、運営推進会議を活用し、地域住民に周知していく